

オーディオシステム電源周り改善のひとつの考え方

オーディオシステムの電源周りを改善するに際して、やはりあらかじめ全体の考え方、方針を検討し、これについて納得しておくことがよいと思います。

現在、市場には高価な壁コンセント（以下「壁コン」）、プラグ、ケーブル、電源ボックスが沢山出回っています。

選択肢が大変広いので、散々迷った末に期待した効果が得られなかったという事態になりかねません。

本論ではベーシックと思われる考え方を展開してみたいと思います。

具体的な製品名も登場しますが、これはその製品を推奨することが目的ではなく、この考え方に沿った製品だということに意味があります。

大方針

1 機械的な強度・安定性を重視する

従って2Pではなく3P（=3端子）方式が基本となります。

2 出来るだけ不確定要素を排除する

この具体的な意味ですが、「ありふれた材、非メッキを基本とする」ということになります。

様々な材やメッキがありますが、高価な材やメッキは電源周りの改善費用を大幅に押し上げてしまいます。

しかも、システム全体の中でそれらがどのように作用するのかを予測することは大変難しいのです。

3 妥当な費用の範囲で

例えば、システムを構成する機器の合計価格の5～10%程度ならまあ妥当ではないでしょうか。

もし機器の価格が10万円なのに3万円の電源ケーブルを使うということになれば、これではアンバランスだと思います。

基本的なコンセプト

これは機器の直前まで、壁コンまで来ている電源を出来るだけ素直な形で持って行くことになります。基本はこうした考え方だと思います。

機器側からみると、壁コンに機器を直結するイメージです。

各コンポーネントについて

1 壁コンセント

まず通常の2Pの壁コン（一般住宅では圧倒的にパナソニック電工製が多い）を同社の3P病院仕様（WN1318）に交換します。電極は非メッキ真鍮製です。

（オーディオ）専門メーカーからは多種多様な壁コンが発売されていますが、何しろ元々がパナソニック電工のコンセントなので、交換時の「収まり」が良い上、価格も¥1,200前後です。

*「病院仕様」の意義ですが、医療機器を接続するためのコンセントなので丈夫でプラグが抜けにくいということになります。

2 電源タップ

これについては2通りの製品があります。

ひとつは電源タップ本体と壁コンへ接続するためのケーブルが別々なタイプ、もうひとつは電源タップからケーブルが直出しになっている一体型です。

接点を出来るだけ減らすという観点からすると後者の方が良さそうです。

具体的な製品としてはプロケーブルの「新型シールド重鉄タップ・四個口（ケーブル長2m）」¥10,800、オヤイデの「OCB-1SX（ケーブル長2m）」¥20,160があります。共にプラグは非メッキです。

3Pの電源ケーブルは概して太く硬く重いので、電源タップ自体が重い方が有利かもしれませんが（プロケーブルの製品は自重が約1.65kg）。

3 電源タップから各機器への電源ケーブル

非メッキのプラグとなれば、プロケーブルの「(WATTGATE)シールド電源ケーブル・透明プラグ（ケーブル長1.5m）」¥8,300、オヤイデでは「BLACK MAMBA-a（ケーブル長1.8m）」¥18,900があります。共にシールドケーブルを使用しています。

繰り返しになりますが、何しろ電源ケーブルは太くて硬くて重いので、電源周りの物理的・機械的な安定性（振動対策といってもいいでしょう）が大切です。

その為には「適切な長さの選択」も重要です。短ければよいというものではありません。

以上